

# 日本共産党 日立市議団ニュース

No.12 2003年8月7日

発行 日本共産党日立市議団

連絡先 日本共産党北部地区委員会

日立市石名坂町 1525-21/ (53)8501



小林真美子

(21)4919



大曽根勝正

(52)1570

ご相談はお気軽にどうぞ

## 日立市・十王町合併は編入合併に ～ 市長が日立市議会全員協議会で報告

7月31日、日立市議会全員協議会が開かれ、市長より日立市・十王町の合併方式等基本4項目が合併協議会で決まったことが報告されました。

- 合併の方式 十王町が日立市に編入  
合併の期日 平成16年11月～平成17年2月  
          具体的な期日は改めて協議する  
新市の名称 日立市  
事務所位置 現在の日立市役所

小林真美子市議は、新市の名称について市民公募など住民参加をとれなかったのかを質問しました。櫻村市長は、合併協議会で十王町の委員から「日立市」の名称でという意見が出されたと説明しました。小林市議は、合併で合併特例期間である15年を過ぎると地方交付税が大きく減額になることはあきらかたで、そうしたこともふくめて、メリット、デメリットを情報公開し、住民に合併の判断をあおぐべきと発言しました。

その他、今年度の協議スケジュール案として、11月に、合併協議の進捗状況、新市建設計画等について住民と意見交換をおこなう地区別説明会の開催などが報告されました。

\* 新市建設計画 = 合併協議会では地域の将来ビジョンを検討し、それを市町村建設計画として作成します。この市町村建設計画は、合併するかどうかの判断材料になるばかりでなく、いわば合併後の市町村マスタープランであり、たいへん重要なものです。様々な財政面での支援措置も、この建設計画を基礎として講じられることになっています。(県作成の「市町村合併とこれからの地域づくり」より)日立市・十王町合併協では10年間の計画を、「活力ある創造・交流・環境都市」 自然と共生するにぎわいあるまちづくりという将来像で協議していくとしています。

## 地方自治の再生へ～第45回自治体学校からの報告2

大曾根勝正

第45回自治体学校(徳島)に参加してきました。テーマは「四国の新しい風を地方自治の再生へ 自治体再編と市民運動の新たな展開」です。前回にひきつづき報告します。

分科会で私は「地域調査から産業政策づくりへ」を選びました。ここでの報告を紹介します。

(1)京都城陽市職員労組が、日産車体京都工場の閉鎖や信用金庫の経営破綻などによる地域経済と暮らしへの影響を民商や建築労組といっしょに調査したとりくみが報告されました。この取組みを通して 従業員規模十人未満の小規模事業所が多い 事業主の高齢化 信金破綻や日産車体の閉鎖の影響を受けている 市の制度融資の利用が低いなど全体の傾向がつかめ、まちづくりの課題、産業政策に論議がうつつているとのことでした。

(2)徳島県上勝町の彩(いろどり)事業について

町の86%が山林で町の基幹産業は林業だったが輸入自由化で不振に。ミカン産地づくりを展開したが、これも寒害で全滅し町は存亡の危機に。高齢者率は44%の中で知恵を出し合い、今高齢者を中心に、柿や桜といった料理人がつまものに使う木の葉やつぼみをトレイにパックして出荷する「彩(いろどり)」事業が成功し、二億円の事業に成長しているとの報告でした。

自民党政治のもとで、都市でも農村でも、大きな問題をかかえてたいへんな状況だが、住民が知恵を出し合い「住民が主人公」の立場で乗り切ろうとしている報告に元気をもらいました。

日本共産党北部地区委員会ホームページは <http://www.jcp-net.jp/ibahoku>です。「日立市議団ニュース」のバックナンバーもご覧いただけます。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。

